

認 定 書

国 住 参 建 第 3086 号
令和 7 年 12 月 15 日

JFE 建材株式会社
代表取締役社長 梶本 直政 様

国土交通大臣 金子 恭之

下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP120FL-0280
2. 認定をした構造方法等の名称
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。
令和 7 年 10 月 1 日より大臣印の押印が廃止されております。

別 添

1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）

2. 荷重及び支持間隔

- ・床の支持間隔：3,200 mm以下の場合
自重を含めた全荷重：12.85kN/m²以下
 - ・床の支持間隔：3,200mm 超～3,600mm の場合
自重を含めた全荷重(w)×支持間隔(L)の2乗=88.65kN 下
(一般的な支持間隔と荷重を表-1に示す)
- 注) 全荷重=固定荷重+積載荷重

3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様
床版	デッキプレート 規格：JIS G 3352(デッキプレート) 鋼板の種類：SDP1T※、SDP1TG※、SDP2、SDP2G、SDP3 ※鋼板の厚さ1.2 mm、1.6 mmに限る 鋼板の厚さ(mm)：1.0～1.6 山高さ(mm)：75±1.5 働き幅(mm)：300-2, +8、600-2, +8 形状及び寸法：4. 構造説明図参照 コンクリート 規格：JIS A 5308(レディーミクストコンクリート) 種類及び呼び強度(N/mm²)：普通コンクリート(呼び強度：21～45) 厚さ(mm)：75～130(デッキプレート山上からの厚さ) 床版の総厚(mm)：150～205 支持条件：単純支持
ひび割れ拡大防止用鉄筋	仕様：①又は②のいずれかとする。 ①溶接金網 規格：JIS G 3551 線径(mm)：6 以上 間隔(mm)：100 以下×100 以下 かぶり厚さ(mm)：30 以上（コンクリート上面から） ②鉄筋（異形鉄筋） 材料名及び規格：(1)又は(2)のいずれかとする。 (1)鉄筋コンクリート用棒鋼（JIS G 3112） (2)鉄筋コンクリート用再生棒鋼（JIS G 3117） 直径(mm)：D10 以上 配筋間隔(mm)：200 以下×200 以下(ただし、D13 以上は300 以下×300 以下) かぶり厚さ(mm)：30 以上（コンクリート上面から）
スパーサー	種類：①又は②のいずれかとする。 ①鉄材 径、厚さ(mm)：4.5 以上(線材の場合)、1.0 以上(板材の場合) (規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径、板厚以上) 配置間隔(mm)：1,000 以下 ②セメントモルタルブロック 寸法：規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 配置間隔(mm)：1,000 以下

表-1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔 (mm)	自重を含めた全荷重 (kN/m ²)
3200 以下	12.85 以下
3300	8.14 以下
3400	7.66 以下
3500	7.23 以下
3600	6.84 以下

注) 支持間隔が表の中間の値の場合は $WL^2=88.65\text{kN}$ 以下であることを確認すること

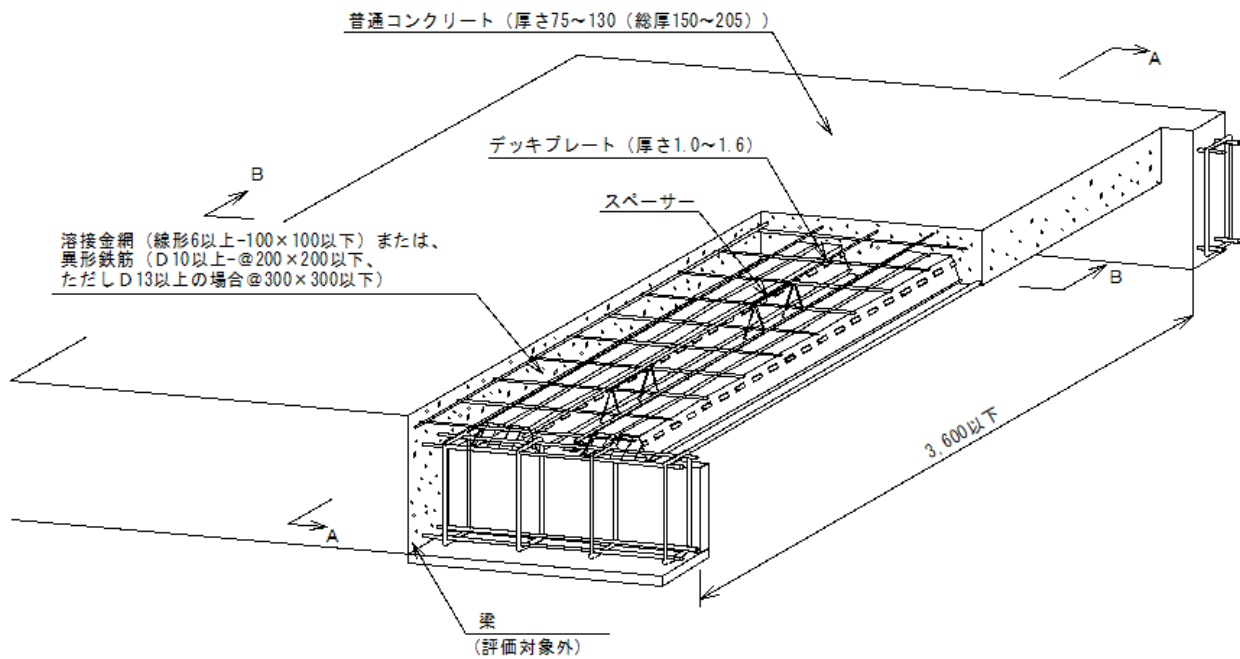
W : 自重を含めた全荷重 (kN/m²)

L : 支持間隔 (m)

4. 構造説明図

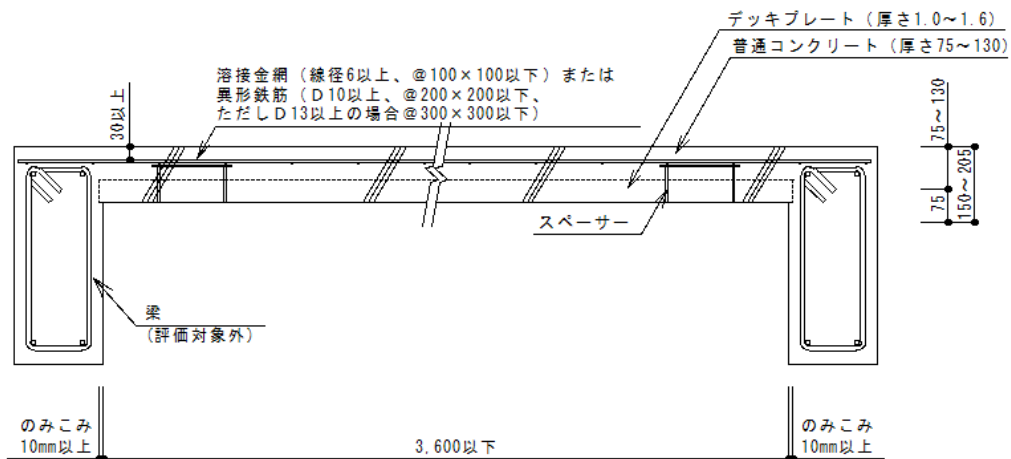
(1) 透視図

(単位：mm)

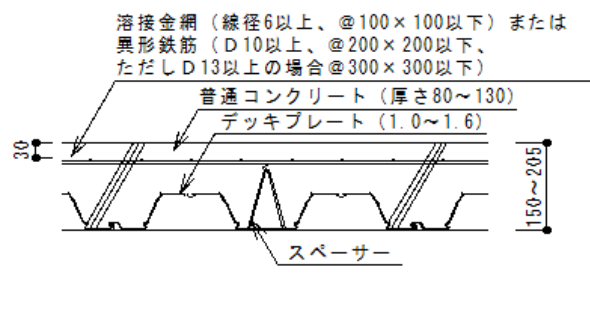


(2) 断面図

(単位：mm)



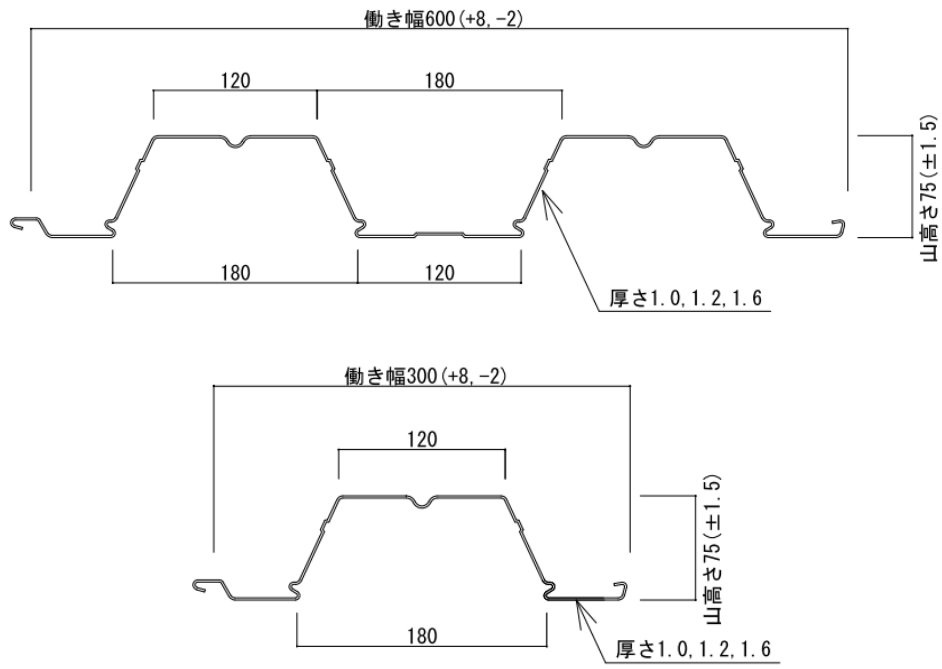
A-A断面図



B-B断面図

(3) デッキプレートの形状及び寸法

(単位 : mm)



5. 施工方法

(1) デッキプレートの敷き込み

デッキプレートを設置する梁内法の間隔は3,600 mm以下、デッキプレートの端部と梁とののみこみ代は10 mm以上とする。デッキプレート床構造設計・施工規準 2018（(一社)日本鋼構造協会）に示された管理方法や施工手順に従いデッキプレートを敷き込み、デッキプレートと梁とを仮止めする。

(2) デッキプレートの長さ方向相互の接合

デッキプレートの長さ方向相互の接合は、嵌合・溶接・ビス等により構造上・耐火上有効に行う。

(3) デッキプレートの小口処理

必要に応じて、デッキプレートの山部の小口を鋼板等で塞ぐ。

(4) ひび割れ拡大防止用鉄筋の配置

溶接金網または異形鉄筋は、スペーサー(配置間隔 1,000 mm以下)を用いて、床版上面からのコンクリートのかぶり厚さが 30 mm以上となるように床全面に敷き並べる。異形鉄線溶接金網を用いる場合の継ぎ手は、延長筋型重ね継ぎ手とすることができる。延長筋型重ね継ぎ手の継手方法は、GBRC 性能証明第 01-08 号改 4、または、GBRC 性能証明第 07-16 号改 2 による。

溶接金網は線径 6 mm以上とし、間隔がそれぞれ 100 mm以下のものとする。異形鉄筋は、D10 以上、タテ、ヨコ間隔 200 mm以下または D13 以上、タテ、ヨコ間隔 300 mm以下で、梁上を含め床全面に敷き並べる。配筋の詳細は「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて、特記（例えば、構造評定や性能証明を取得した工法、GBRC 性能証明第 01-08 号改 4、または、GBRC 性能証明第 07-16 号改等）によるか、または、JASS 5 の記載例による。

(5) コンクリートの打込み

コンクリートの打込みは、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。コンクリートは、溶接金網または異形鉄筋の移動によりかぶり厚さ不足が生じることのないように、また、所定厚さを確保するように不陸なく打込む。床スラブの厚さの許容差は JASS5(2022 年)に記載の-5mm、+20mm とする。

(6) コンクリートの仕上げ

原則としてコンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

(7) コンクリートの養生

コンクリートの養生は、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠するが、初期には湿潤養生を行う。